

右旋帯域の有効利用に向けた 新たな映像符号化方式の検討について

**デジタル時代における放送制度の
在り方に関する検討会
衛星放送ワーキンググループ**

令和6年8月5日

- 現在、衛星放送の右旋帯域においては、利用可能な周波数がひっ迫しているところ、当該帯域のさらなる有効活用を図るため、より圧縮効率の高い新たな映像符号化方式の活用が考えられる。
- 映像符号化方式として、現行の2K放送についてはMPEG-2方式が、4K放送についてはより圧縮効率の高いHEVC方式が使用されている。
- 2K放送にHEVC方式を使用する場合、より少ない周波数帯域で放送することができ、また、当該2K放送を4K放送と同一の中継器に収容することが可能となる。他方、その制度化に係る課題として、主に以下の点が考えられる。

○ 2K放送にHEVC方式を使用する場合における周波数の使用に関する基準の検討

- 衛星放送については、総務省令※により、衛星基幹放送業務に使用する帯域（周波数）を規定。
（テレビジョン放送、データ放送、マルチ放送を行う場合等のスロット数の上限値を規定）

【2K放送(BS)の場合のスロット数の上限の例（1中継器は48スロット相当）】

※衛星基幹放送に係る周波数の使用に関する基準（令和2年総務省令第9号）

テレビジョン放送	（データ放送を行うとき）	（マルチ編成を行うとき）
12スロット	+2スロット	+4スロット

- 2K放送にHEVC方式を使用する場合に、HEVC方式の圧縮効率の高さを踏まえたスロット数の上限の検討が必要。

【同等の画質を確保することを想定したMPEG-2方式・HEVC方式の比較（機械による机上計算）】

MPEG-2方式		⇒	HEVC方式	
テレビジョン放送	1中継器のスロット数		テレビジョン放送	1中継器のスロット数
12スロット	48スロット		15スロット	120スロット

○ 機械による机上計算の結果の検討

- 機械による机上計算の結果で問題ないか、画質主観評価の実施の検討が必要。